

予報期間 1月8日から1月14日まで

◆今期間のポイント

<主要じょう乱の概要>

- 10日から11日にかけて、低気圧が発達しながら日本海からオホーツク海へ進み、11日は日本付近の冬型の気圧配置が強まる。
- 12日から14日にかけて冬型の気圧配置が続くが、14日は東シナ海に高気圧が移動して西から冬型の気圧配置が緩む。

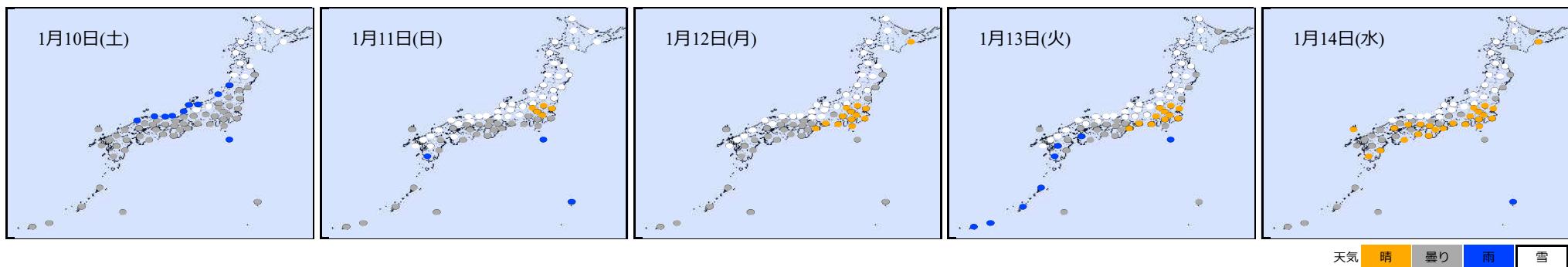
<防災事項> 11時、17時発表の早期注意情報に合わせて当項目は修正する場合があります。

- 10日から11日頃にかけて低気圧が発達しながら日本海からオホーツク海へ進む。その後12日頃にかけて日本付近には強い寒気が流れ込み、強い冬型の気圧配置となる。このため、北日本や東日本から西日本にかけての日本海側を中心に大荒れや大しけとなる所があり、寒気の強さや冬型の気圧配置の強まりの程度等によっては警報級の大雪となるおそれがある。

※最新の早期注意情報、気象情報、台風予報も参照ください。

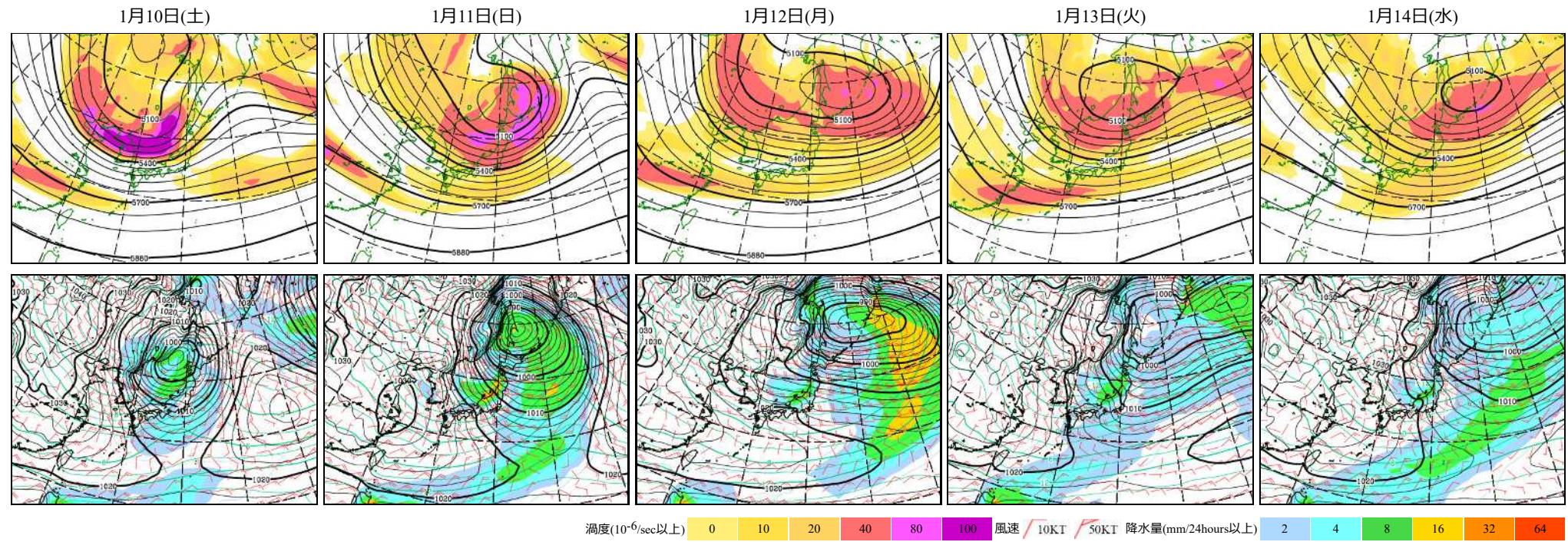
以下の資料は、気象事業者等が、気象庁の提供する週間天気予報の根拠を理解するための補助資料であり、そのままの形式で一般に提供することを想定して作成したものではありません。

◆10時時点の3～7日目の天気予報案 (11時以降は気象庁HP等にて発表予報をご利用ください。)

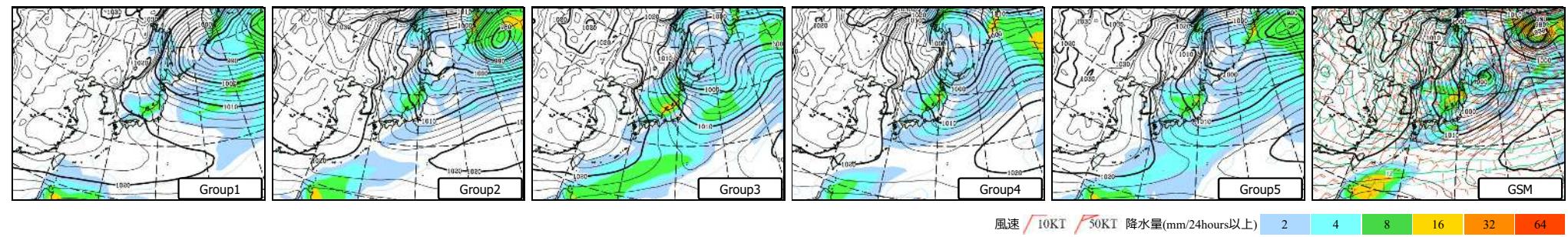


- 北日本と東日本から西日本にかけての日本海側は、曇りや雪または雨の降る日が多い。
- 東日本太平洋側は、晴れまたは曇りの日が多い。
- 西日本太平洋側は、曇りや晴れの日が多いが、11日と13日は雪または雨の降る所がある。
- 沖縄・奄美は、雲が広がりやすく、13日は雨の降る所が多い。

◆アンサンブル(ENS)平均予想図 上図：500hPa高度線、渦度 下図：海面気圧、地上風、前24時間降水量(21時)



◆1月13日のENSクラスター平均(グループ1～5)とGSMの地上予想図 海面気圧、地上風(GSMのみ)、前24時間降水量(21時)



◆昨日資料からの変化と予想のばらつき

- 最新のアンサンブル資料（ENS）は、10日から11日にかけて日本海からオホーツク海へ進む低気圧が発達する傾向で動きは少し遅くなり、11日は日本付近の冬型が強まった。このため、11日は西日本日本海側を中心に降水確率ガイダンスの値が大きくなった。12日は日本の南に張り出す高気圧が強まり、その後は冬型の気圧配置が弱まる傾向となった。
- モデル間の差は11日までは小さいが、その後は寒冷渦やトラフの動きにバラツキが見られ、13日に日本付近を通過する気圧の谷（または低気圧）の動きに違いが見られる。
- スプレッドは期間の後半に大きく、特定高度線のばらつきも見られる。

◆ENSからの修正点とサブシナリオ等の補足事項

- 予報は、おおむね最新のENSを基に考える。